

2017 年度 正月山行

日時 2017 年 12 月 30 日～2018 年 1 月 2 日

場所 遠望山～ウペペサンケ山

メンバー L 秋元、栗山、望月

毎年、恒例となった正月山行ではあるが、恒例といっても正月休みをフルに使った山行にはあまり参加してくれる方も少なく、毎年少数精鋭での山行である。これは正月のこの時期では雪が少ないか、多くても安定した積雪を形成していないことでスキーには不向きになる可能性がある事も影響しているだろうが、何より家族との正月を過ごさない覚悟がいることがメンバーを安定させない要因であろう。

1 日目 12 月 30 日

参加者 3 名の自宅住所が札幌の最も遠い 3 点を結んでいたのも、朝にそれぞれの自宅を回ってしまっただけは時間のロスと考え、望月くんには悪いが、前日に事務所に来てもらいひとり前泊してもらう。結局早朝に出たものの菅野温泉を出発したのは 11 時 45 分となる。はじめから除雪なしのラッセルではあるが今年はめっきり雪も少なく、スキーでは足首丈の積雪なので非常に楽に歩ける。シイシカリベツ川林道には登山道(廃道?)があるらしいが、今回は遠望山からのルートをとるためミギフタマタザワ林道をつめる。

一般的には然別湖畔温泉や糠平側からのルートが最短となるが、ながく歩きたいのと、今日現在は昨年(2016)の台風の影響で湖畔が通行止めとなっている。

ミギフタマタザワ林道は途中、2 カ所へアピンカーブをショートカットする以外は耐え忍ぶだけの林道である。掘削した林道なので側壁は崖面もしくは藪藪であったが、遠望山の南西尾根にかかるあたりでスムーズに取り付ける場所をみつけて本日は 15 時 30 分終了。時間はあるが何せ藪藪で尾根に取りついてもよいテン場を見つけるのに一苦労しそうですから。夕食は新人望月くんの用意してくれた鍋で乾杯。初日でザックが軽くなると思ったら大間違い、次の日には共同装備が横流しされました。

2 日目 12 月 31 日

6 時 30 分ヘッテンつけて出発。忠実に尾根を辿って遠望山北西コルを目指す雪に埋まり切っていない倒木が多く、ジグをきりきり。望月くんは最新ビンディングの TLT を買ってきたのだが、何度外れては取り付けに難渋しており、TLT は軽量であること以外にメリットはあるのか疑問に感じる。

それにしても晴れなくてもよい日に晴天であり、大雪連山から斜里岳までよく展望がきいている。主稜線に入っても風がなく明瞭な稜線中央を歩いていく。C1439.6 石山をはじめとしてピークはなるべく交わして高低差を少なくして歩すが、ほぼ正確にピークを交わせたとしてもだれも褒めてくれないので自己満足に浸る。C1457 あたりからは、さほど雪底も発達してないが稜線も細くなってくるため慎重に降りるようにするが、ボーゲンではなく横歩



きをして安全を確保する栗山さんはさすが。

本日のお宿は C1399 の北東面か、その北のコル C1350 がよさそうだが、予定よりも早い 13 時に到着してしまう。さらに上部を目指せそうだが明日は悪天の予想のため南西の風をさけるコルに日本一立派なテン場をつくるというコンセプトで時間の無駄使いに精を出す。無駄使いといえば、今回の山行で話題になったのが望月くんの「エネルギー無駄使い説」である。本人は案外ショックを受けていたのであまり語らないだろうからここに記載しておく。このエネルギーの無駄使いとは、若くエネルギーが有り余って誰よりも動けると自負しておきながら、スキーを上手く操作できなかつたり、雪の上に立っていることが不慣れなために普通の山家の何倍も無駄に疲れてしまい、結果として追いつけなくなるという現象であり、反対語には「エネルギー拾い集めて節約説」

そんなこんなで年越しそば食って就寝。山で話をする内容の多くはどうでもいいことだ。

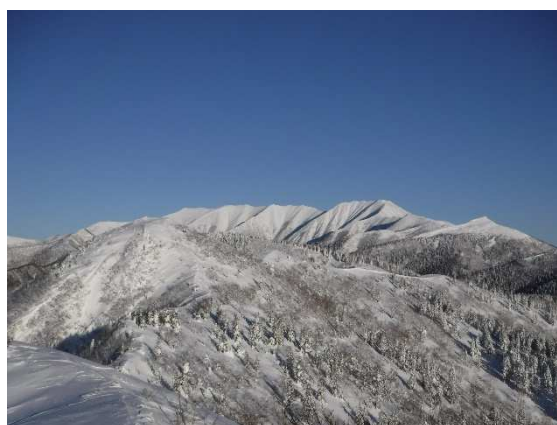
3 日目 1 月 1 日

悪天の予想に反して南からの暖かい風と共に 6 時 30 分出発し行けるとこまで行く作戦。急こう配はスキーであがれるが、徐々にバリズボ地獄。踏ん張って C1696 まではスキーで行くことにして、ガスまじりの稜線でアイゼンはいってシーデポ。天候が許してくれたのは C1834.9 のウペペ東峰であったが、うれしいことにウペペの看板あるじゃない。ということでリーダーの発言ないものの記念撮影がはじまる。本山行のプレ山行として上ホロに行っていたが、そこでは望月くん写真に依頼されるも、しっかりと撮影者である私の指をレンズにかけてしまい記念写真を台無しにしてしまったので、今回は怒られないようにしっかり持って何カットも撮影。ホワイトアウトで全員が目出し帽被っていれば結局誰かわからないのに。9 時 30 分に C1834.9 から下山開始し元来た稜線を歩くが、C1600 南南東面が最もブッシュに悩まされるので下山時は機転を利かせて大きく南東面から高度を下げてみる栗山計画。結果面倒な藪漕ぎを余儀なくされ調子悪し。ややルートロスあったがテン場に 14 時 30 分に戻る。



4 日目 1 月 2 日

6 時 30 分にテン場を出発しひたすら下界を目指す。毎度同じ話を繰り返しているが、どうして山行ではザックが行きと同等かそれ以上の重さになるのか疑問である。これはただ言いたいだけ。下山についてトピックはないが、今年は帰りの林道が短く感じたことはよいことだ。





【これまでとこれから】

2012 年度 オプタテシケ山
 2013 年度 美瑛岳
 2014 年度 ニペソツ山
 2015 年度 トムラウシ山
 2016 年度 暑寒別岳
 2017 年度 ウペペサンケ山
 2018 年度 青森遠征ツアー計画中♡

文責 秋元